

事業所名

遊ことば

## 支援プログラム

作成日

令和6年11月14日

法人（事業所）理念		コミュニケーションや集団生活が苦手な児童がコミュニケーション能力を育てながら充実した集団生活や家庭生活がおくれるように個別・集団療育を通して助言や訓練を行うことを目的とします。		
支援方針		コミュニケーションが未発達で集団生活が苦手な児童に対して、個別療育と集団療育を用いて、コミュニケーション能力を育てながら充実した家庭生活や集団生活がおくれるように助言や訓練を行います。		
営業時間		8時30分から17時30分まで	送迎実施	原則：朝の送り、夕の迎えは保護者に行っていただきます。送迎共に必要な場合は要相談。（距離、利用者等の状況に応じて判断）
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	活動では全体を見渡す機会や見通しを立てられるように目標を設けてから声をかける。更衣、トイレ動作など日常生活動作を自身で完了できるように促し、スモールステップで始めていく。利用者自身で出来ること、サポートがあれば出来ることを見極めて、支援をしていく。		
	運動・感覚	手の平、足の裏、お尻等体を支えたり、接地している感覚をつかみややすくするため、つかむ・支える・滑る等の要素を取り入れ、身体運動やバランス、聴覚、視覚を使うダイナミックな遊びの提供から道具の使用や手の操作性が必要な遊具を使った細かい課題を提供し、自身の身体の使い方を経験していく。		
	認知・行動	興味・関心の持続、選択を促すことに加えて、場面の切り替えの方法を検討し支援していく。指示や状況の理解を個別的に促し、全体的な視点に拡大を図る。「すべき行動」や「しないといけない行動」、「した方がよい行動」を状況に応じた判断力の向上を促し、サポートしていく。経験を積んでいくことで「出来た」「出来る」気持ちを感じて自主的な行動につなげていく。		
	言語 コミュニケーション	専門的な視点から個別支援から小集団の支援の中でことばの獲得をサポートする。言語理解を促し、音声表出の増加を図る。また動作表現も含めて利用者の小さな表出をしっかりを受け止め、コミュニケーション、やり取りに繋いでいけるように対人意識の強化をしていく。また、口腔器官機能の評価も行い、発音にもアプローチし発話明瞭度の向上を図っていく。		
	人間関係 社会性	周囲のお友達や家族に対して利用者が持っている表出方法を用いて、「伝える」方法を支援していく。支援者がモデル提示することや実際のやり取り場面へ仲介することで社会性を身につけていく。また、ロールプレイを行いそれぞれの気持ちの共有や場面の状況を経験することで、自身の判断力を構築し、対応方法を支援していく。		
家族支援		日常生活において、お互いの気持ちや思いを受け止めて、やり取りを増やしていく。	移行支援	送迎時や会議の際に生活の様子の情報共有し、環境設定を行っていく。行事等の際には、説明の方法や促し方について共有を図る。
地域支援・地域連携		関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常的な生活や支援に活用するための具体策を提案する。	職員の質の向上	定期的にカンファレンスを行い、情報共有を行う。個々の評価段階に応じた対応を遊ことば全体で統一していく。また、外部の研修、勉強会へも参加する。
主な行事等		季節に応じた活動を提案する。（花見、プール、遠足、クリスマス会等） 公共機関に実際に行き利用方法の確認や公園でルール遊びの等の外での活動も随時行っていく。		